



今年もさくら祭りでエコステーションが大活躍

NPO 法人 町田発・ゼロ・ウェイストの会による「ごみの出ない町田のお祭り」

町田市ではこの春、3月28日(土)～29日(日)には芹ヶ谷公園で、4月4日(土)～5日(日)には尾根緑道にてそれぞれ毎年恒例のさくら祭りが催され、今年も市の内外から多くの来場者があり、たいへん盛況でした。



市の産業観光課の発表によると、芹ヶ谷公園さくら祭りの当日の来場者は2万2千人、尾根緑道さくら祭りは6万6千人を数えたそうです。そうしたなか、NPO法人 町田発・ゼロ・ウェイストの会が昨年の実験に引き続いて今年もエコステーションを開設し、大幅なごみの減量と資源化を達成しました。

今年もリサイクル容器とリユース食器を導入

例年の動向から両週末ともかなりの来場者が事前に見込まれ、それに伴って会場で発生するごみの量もかなりのものになることが懸念されていました。町田市でのゼロ・ウェイスト宣言にむけてさまざまな活動をおこなっている町田発・ゼロ・ウェイストの会は、昨年の実験的開設

の成果を踏まえ、今年もまた、資源になるものとならないものを分別して回収するエコステーションを開設しました(芹ヶ谷公園さくら祭りでは1ヵ所、尾根緑道さくら祭りでは5ヵ所設置)。あわせて今年も、実行委員会での事前の申し合わせのなかで、出店する飲食団体のすべてでリサイクル可能な容器かリユース食器が使用されることになりました。リサイクル可能な容器は食べ物に触れる内部がシートで覆われており、飲食後にシートをはがすことで、容器をきれいなままの状態のリサイクルすることができました。また、お汁ものやビールなどで使用されたリユース食器では、エコステーションに返却すると商品に上乗せされていた10円が戻ってくる、いわゆるデポジット制が採られました。

お祭りで出たごみの半分を資源として回収

芹ヶ谷公園と尾根緑道でのさくら祭り全4日間を総合したごみの総量は1255.9キログラム。そのうちエコステーションにて資源として回収できたものの総量は611.1キログラムになりました。これは資源化率になおすと、約49パーセントに相当します。文字通り、エコステーションによって町田のお祭りのごみを半減させたこととなります。なお、今年のエコステーション、市民ボランティアのみなさんとともに、桜美林大学の環境サークル「エコレジ」のメンバー有志をはじめとする学生ボランティアのみなさんも多数参加をして大活躍でした。



第69号目次

今年もさくら祭りでエコステーションが大活躍	1
ふるさとづくり50年・私の幻燈譜(四)	渋谷 謙三 2
町田青年会議所主催の「市民祭討議会」に思う	向谷 有加 5
誰でも今日から始められる！家庭での軟質プラ、ダンボール蓄積実践法！	6
「テポドンとリテラシー」	桜井 朋広 7
事務局だより・編集後記	8

■ 健全育成都市の宣言大会と関連事業

町田市の「青少年健全育成都市宣言」は、全国に先駆けて1966年(昭和41年)の5月5日の子どもの日に、市立体育館において関係者約1000人が出席して見守る中で行なわれた。主催は市青少年問題協議会、宣言は青山藤吉郎市長が行ない、担当事務局は福祉事務所青少年係の小澤武男係長以下私と女子職員の山元さんの三人、準備は前年の



宣言文を読み上げる 青山藤吉郎・町田市長

1965年の秋から始められた。

「都市宣言」は、青少年問題を全市民の関心や意識を高めるためにとっても大事なことだが、私たち担当はそれより更に重要なのは、実際にどんな育成事業を進めるのかだと考えていた。また、宣言大会は大人の参加が中心なので、子どもたちに夢を与えられる催しも、この機会に併せてぜひともやりたいと考えた。

前者の事業としては、①全市民がこぞって青少年のために考え、行動する体制をつくるために、毎月5日を青少年の日と定める。②各地域の青少年団体の組織化を図る。具体的な対策計画は、各団体の代表者で構成する市青少年問題協議会で検討し実施する。③とりあえず、市役所屋上と各支所に「愛の鐘」を設置し、市民みんなが各地域で、この鐘の音を毎日夕刻に耳にして、子どもたちに心を寄せてもらう機会にする、などの方針が打ち出された。(この鐘は43年後の今も毎日鳴り続けている)

他方、子どもたちに夢を与える催しは、宣言直後の5月8日(日)の母の日に、「母と子の集い」として開催することにしたが、では、子どもたちに夢を与えられる人として誰を招くのか、候補者を決めて日程を調整し、市の予算で交渉することが難問だった。

私は打ち合わせ会議で、密かに考えていた漫画家の「手塚治虫」の名前を出してみた。当時、手塚治虫さんは「鉄腕アトム」や「ジャングル大帝」の作品で、子どもから大人まで既に大変な人気作家だった。企画案は「母と子どもたちに、マンガを通じて人間と動物たちや地球の未来を考える」という狙いで、マンガの出来るまでと、どのようなマンガがよく、どんなマンガは良くないか、などの話を楽しく聞くという内容だった。

「企画は申し分ないが、手塚治虫さんはとても無理だろう」という意見が大半で、最初は誰も本気で受け止める者はいなかった。もっとも私自身も、淡い望みで言うてはみたものの、来てもらえる自信など少しもあるわけではなかった。

しかしその後は、唯もう、無我夢中で手塚治虫さん呼びたいという一心の3ヶ月間を過した。そして3月の中旬に、私は奇跡としか思えないような快諾の返事を手塚治虫

事務所から受け取った。私の勲章ともいうべきその経緯を少し書き綴っておきたい。

■阿佐ヶ谷の「手塚治虫事務所」詣で

当時、手塚治虫事務所は杉並区の阿佐ヶ谷にあった。相手がどんな著名人だろうと交渉しなければ何も始まらない。「無謀な男」という上司の哀れむような目線を尻目に、私は地図を頼りに手塚事務所にたどり着いた。しゃれた洋風の建物の入り口の前に立つと何故か両足が震えた。意を決して呼び鈴を押す。2-3度押しても誰も出てこない。『シマッタ!留守だ。電話でアポイントぐらいとるべきだった』今更後悔しても始まらない。すると、突然ドアが開き中年の男が顔を出し、私をじろっと見てすぐに中に引っ込んだ。すると今度はまた別の男が顔を出し、3-4人が代わる代わる顔を見せた。どうも私の首実験が行われたらしい。「あんたはどこの社だ？」遂に最後の男が声をかけてきた。出版社の者ではない。事務所の方にお会いしたいと話すと、しばらくして、ネクタイ姿の私より若い20代の男が出てきた。

「手塚の秘書の松谷と言いますが、どんなご用件ですか」私は、用意した封筒入りの市長名の要請書を渡しながら手短かに用件を話す。その男は私の話が終わるまで待たずに、「いま、先生は身動きできないほど忙しい。見てのとおり締め切り間際原稿を貰う編集者たちが朝から押しかけている。とてもお会いすることなど出来ません」文書は本人に渡しておくから帰れと言う。玄関の中にも入れてくれない。もっとも余計な者を入れたら、帰れコールの大合唱になりかねない。先ほどの冷ややかな男どもを思い浮かべて、私は咄嗟の判断をして素直に帰ることにした。明後日もう一度来よう。そう心に決めて事務所を後にしたが、心は暗く足は鉛のように重かった。

私の手塚事務所詣では、先ずは失敗したが、逆に心の中ではあの事務所で遭遇した男たちの真剣なまなざしを思い興すと、あれだけファンの多い人気作家に的を絞ったのは間違っただけではなかった、という確信めいた気持ちも強く湧きはじめていた。

何度か玄関払いを経験する毎に、私は次第に松谷さんの視線に、厄介な奴という感情とは別の、ある種の同情が入り混じってきはじめているのに気がついた。出版社の人向け用の「のど飴やせんべい」などを貰ったり、男たちがとぐろを巻いている応接間の片隅に出入りを許されるようにもなった。しかし、返事は「忙しい」の一点張りだった。

私は意を決して「松谷さん、これ以上ご迷惑をかけるのは心苦しいし、先生のご事情もよく判りました。このスクラップブックは、これまでの町田市の青少年対策のあらましと都市宣言を中心とするこれからの対策の概要の記事や資料を貼り付けたものです。せめて、一度だけでも先生に目を通していただいて、いつの日にか、町田市に来ていただけたら嬉しいと考えます。今回は残念ながら先生をお招きすることは諦めます」

口では言い表せない複雑な想いを残して、私は手塚事務所を後にした。

■「町田丸ごと おとぎの国にしたら？」——忘れえぬ手塚治虫さんの言葉

奇跡はそれから半月程して起こった。計画変更を検討している最中のことだった。「手塚本人が何うと言っています。市の詳しい計画を送って

ください」電話口での秘書の松谷さんの声も心なしか震えているようだった。私も全身の血が一気に抜け出るように感じた。「当日の先生の送り迎えはお願いできますか?」「も、もちろんいたします。で、お礼はどれ程差し上げればよいのでしょうか?」初めから一番気になっていた件だ。「手塚は頂かないと言っておりますので結構です」「エッ、でも、、、」私はそれ以上何も言えなかった。では、百万円と言われても当たり前の人と思えるし、「では止める」などと言われたら元も子も無くし兼ねなかった。



ありし日の手塚治虫さん
(日本経済新聞より)

5月8日(日)の朝9時、私は公用車で阿佐ヶ谷の手塚事務所に伺い、初めて手塚治虫さんにお会いした。「やあ、おはようございます。渋谷さんでしたね、ご苦労様」かん高く明瞭な、独特の聴きやすい声だった。殺人的な忙しさ中を、都合をつけて行ってやるなどという素振りには微塵も無い人だった。「渋谷さん、今日は、ジャングル大帝という新しい16ミリのカラーフィルムを持って行きます。私が話をした後、子どもたちにこれを見てほしい。上映時間は1時間半ぐらいです。私は楽屋をお借りして残っている仕事を片付けます。机と椅子と電気スタンドもお借りしたいのですが、、、」。途端に私は何故か目頭が熱くなり、声が出なくなった。松谷秘書が手を私の肩に置き「市役所には、私が電話で頼んでおきますから、遅れないように出発してください」と促した。

それからの車中での二人だけの約2時間は、今でも忘れ難い私の至福の時間だった。「先生は、アメリカのディズニーランドのようなものを日本に作ることをお考えですか?」「もちろん考えています。でも、僕が造りたいのは、もうすぐ完成するディズニーワールドのほう。町田市の面積はいくら?エッ、73平方キロ?じゃあ、そのワールドというのはフロリダ州に造っている最中だが、面積が町田市の2倍近くあって、その約半分は原野のままで、残りの半分、つまり「町田全部がおとぎの国」っていう感じなんです。人類が将来宇宙で暮らせるためのいろいろな研究、例えば酸素を創るとか、真水を製造する、長期保存の利く食料だの、いろいろな環境保全の技術や薬などを研究開発しているんですが、そんなものに触れたり体験したりできる公園になるらしい。そんなテーマパークを造って、お茶の水博士が出てきて説明してくれたら楽しいでしょう。どうですか、渋谷さん、町田をそっくりそのまま、作り替えませんか?」

手塚さんの夢は果てしなく大きく、とてつもなく楽しいものだった。もしかすると、私の「ふるさとづくり50年」の原点はこの辺りなのかも知れない。そして不思議なことは、つい先日、私が旅した南仏のプロヴァンス地方の、古くはローマ時代からの村々は、手塚さんの言う「おとぎの国」を髣髴とさせるものばかりだったのだ。(次号に続く)

(追記) 東京ディズニーランドは、その時から17年後の1983年4月にオープンしたが、残念ながら、手塚治虫氏は1989年に夢を残したままこの世を去った。今、手塚プロダクションは松谷孝征氏が社長を継ぎ、15年ほど前から「手塚ワールドの構想」を打ち出したが、バブル経済の崩壊で苦戦したままである。

町田青年会議所主催の「市民祭討議会」に思う

向谷 有加

2009年4月9日（木）に開かれた町田青年会議所（以下、町田JCと略記）の4月度例会。9月に開催を予定している市民祭事業をめぐって「町田市の新たなる飛躍！より良い市民祭創造を目指して！」というタイトルの「市民祭討議会」というイベントが行われました。この討議会は一般市民にも広く参加をよびかけたもので、筆者も一市民として参加したのですが、その際の雑感をここですこしご紹介したいと思います。

当日は19時30分より町田市民ホールの第4会議室において始まり、まず約10の団体代表者の参加のあることが紹介されました。続いて町田市の歴代の市民祭（「23万人の個展」、「まちづくりワイワイ祭」等）とそれらにたいする町田JCの関わりについて説明がなされ、今年度また新たなかたちで市民祭を復活させたいという抱負が述べられました。



その後、あらかじめ用意されたテーマである①「市民祭でやってみたいイベントは？」と、②「町田の良いところは？」について、テーブルごとにグループ分けされた参加者がディスカッションしながら討議に取り組み、その答えをまとめて最後にグループごとの発表をしました。各グループの発表内容は紙幅の関係から割愛しますが、①では「体験共有型イベント」や「スポーツと町田市の文化に親しむ」といったアイデアがひろく共通して出され、②では「都会と自然の融合」、「住みやすさ」を町田市の長所として共通して取り上げる点が注意を引きました。

この討議会は前述のとおり一般にも開かれていましたが、実際の出席者が内輪の関係者にとどまっていた印象はやはり否めませんでした。また、今年の市民祭事業は昨年に一定の成功をおさめた「ACTION2008」に「文化祭」的要素を加味して…という方向性



があらかじめあったようですが、筆者の記憶の限りでは今回の討議中、たとえば昨年の町田市でおこなわれた文化事業である、屋根のない博物館「玉のよこやま」アート&ウォークの成果について、報告や発表中で言及されるのを聞く機会はありませんでした。この点にかんして、個人的に若干の違和感がありました。さらに、参加者のひとりとして自戒をこめて付け加えれば、グループディスカッションをつうじて、市民祭のあり方をめぐる目を引くようなアイデアがほとんど出なかった点にも物足りなさが残りました。

もちろん、この討議会は新たな市民祭の可能性を考えるにあたってのブレインストーミングであり、短時間のうちにグループ発表形式で答えをまとめるため、参加者各自の発想が最終的にわかりやすいイメージに収斂されざるを得なかったことは、ある程度仕方ないと思われま

す。この討議会のあと、町田JCはグループディスカッションの結果を持ち帰り、その内容を検討する作業に入るそうですが、町田市のなかに新しい流れをつくりだす市民祭を考えるにあたっては、最近の町田市の、あるいは他市のイベントやその成果についてひろく情報を集め、検討することも重要な作業かと思われま

誰でも今日から始められる！家庭での軟質プラ、ダンボール蓄積実践法！

小山ヶ丘在住のここにこおばさんが実験しているプラごみの容積圧縮方法をご紹介します



まず、2リットルのペットボトル6本入りの空きダンボールをスーパーなどでもらってきます。写真のように上のふたの部分は外側にたたみ、布ガムテープなどでとめます。内側の寸法も測ります。写真のものは、縦7,5×横32,5×高さ31cm。容積は7556,25立方cmになります。

つづいて、押さえのフタを作ります。写真はダンボールを2枚合わせ



たものを布ガムテープで補強しています。取り出しやすいようにガムテープで取っ手を端っこにつけてみました。全部の重さも量っておきましょう。写真のものは、箱だけでは325g、押さえフタ込みで430gです。

町田市のみなさんは、市指定の20リットルの燃えないごみの袋をセットします。他の市にお住まいの方は同じような20リットルの袋を準備してください。2リットルのペットボトル6本入りの空きダンボールに調度良い大きさです。そのなか



に軟らかいプラのごみ(容器包装プラ)をきれいな乾いた状態で、コツコツいたらに伸ばしながらためていきましょう。

そのうえから、適当な重さと大きさのおもしをします。漬け物の要領！写真では、生協のABパックの水、1リットル6本入りのダンボール(総量6,4kg)に、紐の持ち手をガムテープで付けたものを使用しています。



さて、どのくらいたまったでしょう。だいたい1,89kgから2,64kgため込んで、梱包(袋の上を結べれば大丈夫)できれば、容器包装リサイクル法が定めているプラスチックの圧縮中間



処理と同じ密度になります。なお、硬めのプラスチックは、同じ形で重ねて別のダンボールにためます。硬質プラスチックは重ねるだけでもかなりの密度になり、20リットルの袋にだいたい1,89kg~2,64kgは、圧縮しなくてもうまく詰め込めます。

この方法を実践すると、自然とプラごみの自宅再利用などの方法を考えるようにもなります。やり方はとても簡単です。どうかたくさんの方に家庭で手軽にできるこの実験に参加してもらえたらと思います。

「テポドンとリテラシー」

桜井 朋広

ある集まりで「今年の桜祭りは、テポドン危機に備えて中止だそうだ!!」と言ってみた。「嘘でしょう!」とすぐ判ったのは、遅刻してきた女性一人のみ。もちろん今日が4月1日ということはみんな知っているはずなのですが。

☆毎朝毎晩ニュース報道で「明日に発射かもしれない」、「墜落に備えて迎撃ミサイルを配備」等々。北隣の国の打ち上げる「ロケット」こと「テポドンミサイル」は、4月の初めに日本中の恐怖の的でした。政府の被害予想で『万万が一、街の中に落ちれば、半径700メートルは火の海、900メートルまで破片が飛び散り、危険!!』なんて言われれば、誰でも気が気ではないでしょう。

けれどそんな中で、政府は同時に『国民は不安に駆られず、普段と変わりなく過ごす様に』とも呼びかけ。『万万が一』の事態はどうなるんだ?との疑問を余所に、場所によっては物々しい「迎撃ミサイル」の近くで大勢のんびり花見、という奇妙な光景となりました。

そして結局、ご存知の通り「ロケット」は下での大騒ぎを余所にはるか大気圏外を太平洋まで予定通り飛行。開発に数千億円!という日本の迎撃ミサイルは、単なるお披露目になっただけでした。

冷静に考えれば、報道は矛盾があり、国民の多くが微々たる危険に対して、過剰な反応をさせられただけでないか、と思えます(実際、夏に上がる韓国製ロケットには、迎撃ミサイルは準備しない様です)。こうした報道を鵜呑みにしないで、読み解く能力の事を「情報リテラシー」と呼ぶそうです。先の遅刻婦人も「余所ではそんな話は聞かないから」という冷静な判断で「エープリルフール」を見抜きました。私たち市民も様々な情報の中で、何が真実か冷静に判断する『リテラシー』を鍛えるべきではないでしょうか。

※蛇足：後でエープリルフールは午前中だけ、と言われました。関係者の皆さん、御免なさい。m()m

事務局だより

定例会のおしらせ

・6月の定例会は6月3日(水曜日)です。

中央公民館 学習室(3) 18:00～

今年度の移動リサイクル広場の場所と日程

2009年度、毎月第4土曜日の午前10時から午後3時まで、鶴川団地商店街広場と相原中央公園に移動リサイクル広場がやってきました。下の画像は4月25日(土)の鶴川団地商店街広場での移動リサイクル広場の様子です。この日は雨のため、商店街のアーケードの軒先を借りての移動広場となりましたが、午前中だけで30人を上回る商店街周辺のみなさんが、資源になるものを持ち込んでいました。移動リサイクル広場にもくるくるコーナーが設置され、それを目当てに足をとめるひともし少なくないようです。小山田のリサイクル広場まちだと同じく、資源を持参したひとにはポイントが付与され、5ポイントたまると再生紙のトイレットペーパーと交換できます。

この移動リサイクル広場は鶴川団地商店街広場と相原中央公園以外にも、毎月第1土曜日には成瀬クリーンセンターに、第2土曜日には鶴川市民センターに、第3土曜日には塚川クリーンセンターにそれぞれやってきます。この移動リサイクル広場を足がかりとして、現在のリサイクル広場まちだ以外にも、市内各地に広場という拠点ができればと思います。



編集後記

大橋成夫会員より日曜の会の30周年イベントの詳細が届きましたので、編集後記にてご案内します(H.I.)。

「日曜の会」設立30周年記念 ミニシンポ(景観座談会)

1)日時:5月17日(日)

13:30～14:30

第一部:「環境色彩勉強会」

講師:吉田慎悟氏(色彩計画家)

14:30～16:30

第二部:座談会「それぞれの地域で大事な風景を見つけよう」事例報告:

小野路(神谷博)

玉川学園(木村真理子)

原町田文学館通り(交渉中)

意見交換:町田市の景観市民調査会および懇談会委員等を中心にコメントを聞き
意見交換 ～16:30 終了

※参加者の中心は日曜の会会員です。
参加ご希望の方は、日曜の会会員にお申し込みください。

2)会場:「可喜庵」町田市能ヶ谷町740 鈴木工務店内 電話 042-735-5771

3)参加費無料

4)「日曜の会30年の歩み展」会期:5月15日(金)～19日(火) 会場:「可喜庵」(上記と同じ場所)

まちづくりの環

町田まちづくり市民会議会報

2009年4月30日第69号発行

発行者 佐藤東洋士

編集責任者 井上弘貴

事務局 常盤町桜美林大学内

TEL 042-797-6947